

福島から始める新しい銅電線リサイクルのかたち

くるりんこは【きずなループ事業】を推進します

3,11 を境に、私たちの価値観が大きく変化しています。中でも環境は重要なテーマとして考えられ、特にエコに対する意識とリサイクルに関する取組みは、国民一人一人にとって身近なものになりました。

これまで日本国内で利用されず輸出されてしまっていた廃電線を、仕事の不足に悩む障がい者施設の安定的な仕事にする【きずなループ事業】の仕組みはそうした中から生まれました。これによって、障がい者の方々の自立支援と、資源の国内リサイクルが促進される事が期待されます。

一般企業では事業採算性の確保が難しく、敬遠される廃電線リサイクルですが、銅は必要不可欠な資源のため「売れない」ということがないので、納期や時間の制約がありません。そのため自分たちのペースで仕事のできる障がい者施設の仕事として、優れた収入源となります。また、障がい者の方の中には類まれな集中力や、単調な作業にもめげない忍耐力をもった方々もおられ、廃電線リサイクルの電線剥離の仕事は、むしろ好ましい仕事ともいえるのです。



ぜひ【きずなループ事業】にご参加ください。

障がい者施設様

【きずなループ事業】にご興味を持たれた障がい者施設様、ぜひお気軽にご連絡ください。事務局の担当員が様々なご相談をさせていただきますので、安心して廃電線リサイクルを作業として導入していただくことができます。

一般企業様

【きずなループ事業】では、リサイクルする廃電線を提供していただける一般企業様を募集しております。詳細は窓口担当員が丁寧にご案内させていただきます。一般企業様の積極的な参加が、地域の福祉環境に明るい光をもたらしますので、ご検討のほどよろしくお願いいたします。

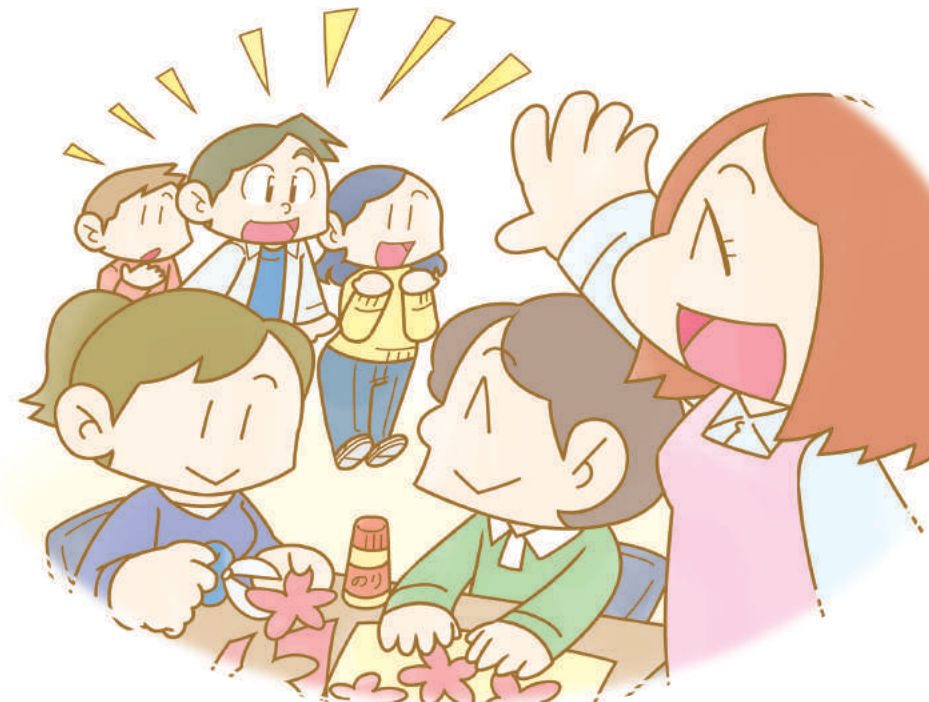
きずなループ事業について、さらに詳しくお知りになりたい方は、きずなループ事業公式ホームページ

<http://kizunaloop.com/>

きずなループ で検索

多くの企業様よりご協力をいただきありがとうございます。
感謝の気持ちをかたちにして、地域の福祉向上に役立ててまいります。

きずなループ事業は経済産業省平成25年度東日本大災害復興ソーシャルビジネス創出促進事業（ソーシャルビジネス新事業創出事業）採択事業です。



「きずなループ事業」参加のきっかけとこれから

荒川産業株式会社 代表取締役 荒川健吉

当社がきずなループ事業に参画したきっかけは、平成20年に視察で行った中国で見た光景でした。そこでは日本から輸入された廃電線が山積みされており、周辺への環境負荷を何ら気にすることなく、銅を取り出す作業が行われていました。女性や子どもを含む作業員の方々が真っ黒になって作業を行っていた事が強く印象に残りました。

帰国後、日本国内でリサイクルにかかるコストがかさむために、品位の低い資源が中国に輸出されている事を知り、またのちに中国から飛来する黄砂や、そこに含まれるPM2.5の問題などを知るにつけ、この責任の一端は「公害の輸出」を行ってきた私たち日本人にもあるのではないかと考えるようになりました。

しかし、具体的にはどうしたらよいのかわからない、そんなもどかしい気持ちをずっと抱えていました。

東日本大震災の後で、福島県内の障がい者施設の方々が、仕事がない事でお困りになっているという事をお聞きした時、中国で見た光景——真っ黒になって働く女性や子どもたち、周辺の環境汚染——が頭によみがえりました。私の目の前には、障がいを抱えながらも仕事をしたい、社会に貢献したいと考える人たちがいる一方で、環境負荷を伴うかたちで国外に輸出されていく資源がある。それならば、輸出をやめて障がい者の方々にリサイクルの作業をやってもらい、その資源を極力国内で使うべきではないか？当時、子どもが生まれたばかりで「震災後の福島に生きるこの子たちに、私たちの世代はどん

な未来を残せるのだろうか？」と思い悩む事が多かった私の胸中に、いつしかそんな想いがふつふつとこみ上げてきた事を今でもよく覚えています。

幸い、当社が立地する福島県会津地方は豊富な水資源と落差に富んだ地形がある事から明治時代から水力発電所が数多く建設されてきた経緯があり、当社では電力会社さんから払い下げられる廃電線を資源化する仕事をやってきたノウハウや、銅の販路などを持っていましたが、障がい者福祉については全くの無知でしたので最初はずいぶん苦労しました。



●日本から輸出された廃電線の山の中にたたずむ中国の子ども

しかしながら、NPO法人くるりんこさんにご縁をいただいた事で、福島県内の障がい者施設さんとのネットワークもできましたし、ちょうど時を同じくして、障がい者の方に安全に作業して頂けるリサイクル機器も登場してきました。そしてニュースレターやホームページによって「きずなループ事業」を知った多くの方々が原料である廃電線の提供という

かたちでご協力・ご支援を申し出て下さいました。「きずなループ事業」関係者のひとりとして、この場を借りて心からの感謝を申し上げたいと思います。

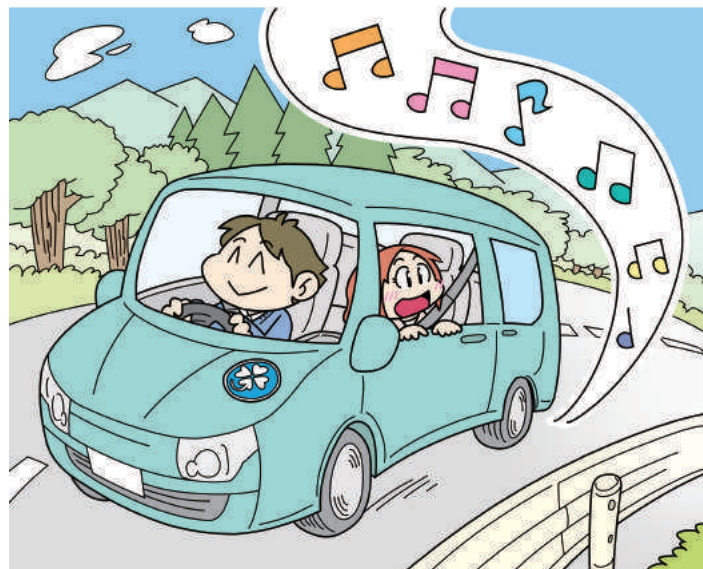
当社は現在、各施設さんから資源化した銅をとりまとめ、地元の工場をふくむ国内ユーザー様へお届けしています。このところの資源価格の低迷により、廃電線買取価格が変更となったり、事業への参加を希望する障がい者施設さんに対して十分なりサイクル機器の台数が行き届かない等、まだまだ課題は尽きませんが、ご協力頂ける数多くの方々の想いを糧に「きずなループ事業」への取組みは今後とも続けていきたいと思っています。

福島熱血エコ通信

くるりんこ
No.05

発行：NPO 法人 くるりんこ

【本部事務所】
〒966-0086 福島県喜多方市字西四ッ谷189番地
TEL:0241-21-9551 FAX:0241-21-9552
【郡山事務所】(きずなループ事業事務局)
〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字宝田46-1
TEL:0120-536-672 FAX:024-953-6769
【ステップボード】(障がい者福祉サービス事業所)
〒969-3537 福島県喜多方市塩川町四奈川字上川原2659番地
TEL:0241-23-7400 FAX:0241-23-7401



●●●ヒロシ君の訪問日記●●●●●

きずなループ事業に参加してくださっている障がい者施設様への訪問レポートです。今回は只見町地域活動支援センター「じねんと」さんに遊びに行ってきました。（福島県南会津郡只見町）

みんな一緒に活動しよう！

カ ナ：ヒロシ兄ちゃん、どこかに行って来たの？

ヒロシ：今日はね、緑がいっぱいの山間の道路をドライブ気分で南会津まで行って来たんだ。だからカナちゃんにお話ししようと思ってたところだよ。

カ ナ：どんなこと？どんなこと？

ヒロシ：只見町の施設に遊びにいったんだけど、途中の金山町のメロディーロードにびっくりした。

カ ナ：めろで〜ろ〜ど？

ヒロシ：道路を一定のスピードで走ると、車のタイヤの摩擦音が音楽になるんだ。すごいんだよ。

カ ナ：道路が歌うの？

ヒロシ：うん、そんなところだね「カントリーロード」という曲名が走ってる時に聴こえてくるんだ。僕の好きな曲だからとっても感動しちゃった。

カ ナ：わ〜！カナも聴いてみたい。きっとお母さんより上手に歌うんだよね。

ヒロシ：………

カ ナ：お母さんってね、本当にお歌が下手なんだよ……

ヒロシ：うううん、わかった。それよりカナちゃん、今日お邪魔したのは、只見町の地域活動支援センター「じねんと」という名前の施設でね……。

カ ナ：じねんと…？

ヒロシ：福島の方言で「あせらないで」とか「ゆっくりと」とって意味の言葉が、施設の名前になったんだって。

カ ナ：面白い名前だね。

ヒロシ：この「じねんと」さんは、これまで伺った施設とはちょっと違って、市町村が主体となって、その地域の中でみんなと一緒にお仕事や生活するのが苦手な人たちが、気持ちよく暮らせるように応援するところなんだ。

カ ナ：ん〜、よくわかんない。

ヒロシ：簡単に言うと、障がいのある人たちだけでなく、いろいろな理由でお仕事ができない人たちの誰でもが集まって勉強したり活動したりできる施設なんだよ。

カ ナ：誰でもいいの？

ヒロシ：そうだね。一般の就労支援の施設だと、国から障がい者の手帳をいただいた人たちが集まるんだけど「じねんと」さんは、そういう決まりがないんだ。ただし、只見町から委託された事業になるから、只見町に住んでいる人に限られるけどね。

カ ナ：ふ〜ん、みんなでパンをつくったり、ヒロシ兄ちゃんのところでやってる銅線のお仕事もしてるの？

ヒロシ：いや、就労支援の施設だと、お仕事のような仕事を中心になるんだけど、ここは通っている人たちがやりたいと思うことややりたいと希望するされた活動をしているんだよ。

カ ナ：………



誰でも自由に参加できますよ

ヒロシ：ほら、この写真を見てごらん。

カ ナ：わ〜、かわいい！テレビで見たことがある顔だ。カナも欲しい！

ヒロシ：これも通っているみんながつくって、施設の玄関に飾ってあるんだ。創作活動のひとつだね。その他にもお料理実習とかパソコンの勉強、身体を動かしてのリクリエーションの活動をしてるんだよ。

カ ナ：いろんなことしてるんだね。

ヒロシ：障がいのある人だけという決まりがないから自由にできるのが「じねんと」さんの特徴だね。ボランティアさんの協力で昔話の語り聞きとか、書道なんかもしているそうだよ。

カ ナ：わ〜！いいな！カナも昔話聞きた〜い！

ヒロシ：そのうち機会があったら一緒に行こうか。

カ ナ：ヒロシ兄ちゃんが施設に行ったのは「どうせん」のお仕事があるからだよね。「じねんと」さんにもあるの？

ヒロシ：そりゃあもちろんだよ。【銅線剥離エコビジネス】障害のある人たちのお仕事になるから、「じねんと」さんにも昨年の12月からお願いしているんだ。

カ ナ：じゃあ、みんなよろこんでいるよね。

ヒロシ：「じねんと」さんには、少し前までは仕事をしていたけれど、理由があって今では仕事が無くなってしまった人も通って来てて、この方が張り切って【銅線剥離エコビジネス】の仕事をしてるんだ。

カ ナ：みんな一緒じゃないの？

ヒロシ：ここは通ってくる人が自由に好きなことを選べる施設だからね。その方はリクリエーション活動もいいんだけど、お仕事のほうが張り合いがあっていいんだって。身体が元気だから取り組む意欲が強いみたいなんだ。

カ ナ：カナもね、お母さんのお手伝いをするとおやついっぱい貰えるから頑張るのと一緒にだね。

ヒロシ：う〜ん……近いけどちょっと違うかな……。なにより【銅線剥離エコビジネス】は、いつまでどれぐらい仕上げなければいけないという納期やノルマがないので、自分のペースでがんばれるんだ。

カ ナ：前にヒロシ兄ちゃんが言ってたけど、あまり難しくないお仕事なんですよ。

ヒロシ：確かに作業は簡単だね。しかし、いろいろな廃電線があるので機械に入らなかったり、付属品の使い方など、人によっては難しいと感じる人がいるかも知れないけど、危険なことはないお仕事だから、安心して薦められるって職員の方からよこされたよ。

カ ナ：じゃあ、もっといっぱい銅線が集まるといいね。

ヒロシ：それもね、おかげさまで銅線を提供していただける会社が少しづつ増えているんだ。お兄ちゃんの望みは【銅線剥離エコビジネス】のきずなループ事業が広がることなのでとてもうれしいことだよ。

カ ナ：よかったね。カナもお母さんのお手伝いをたくさんして、いっぱいおやつを貰うようにしよう…

ヒロシ：………

